ボート女子

佐野（堀越・藤倉）がV

ダブルスカル

シングルスカル

遠藤（佐野東）大差で快勝

高校総体 県予選

全国高校総体（インターハイ）県予選は29日、佐野市の渡良瀬川特設ボート場ほかでボート、テニス、サッカーを行った。

ボートの女子シングルスカルは遠藤三蘭（佐野東）が1000㍍を4分7秒43、同ダブルスカルは佐野（堀越紅羽・藤倉望妃）が3分45秒84で頂点。男子シングルスカルは内田絃心（佐野）が3分55秒07で制した。

テニスは女子団体を行い、作新学院が決勝まで一つも取りこぼさずに優勝。サッカーは矢板や大田原などが2回戦に駒を進めた。

ボート男女各種目の優勝者

◇ボート（渡良瀬川特設ボート場）

▽男子▽シングルスカル①内田絃心（佐野）3分55秒07②小林（佐野東）▽ダブルスカル①佐野（青木、磯貝）3分48秒45▽かじ付きクォドルプル①佐野東（押山、飯山、川島、岡田）3分44秒96

▽女子▽シングルスカル①臼井（佐野）▽ダブルスカル①佐野（堀越、藤倉）3分45秒84②佐野東（小林、中島）▽かじ付きクォドルプル①佐野（岡部、松浦、船渡川、生熊、川田）3分41秒05

（男女各種目の優勝者、優勝チームは8月16～19日、福井県美浜町で行われるインターハイに出場）

快勝にも満足できず

○…ボート女子シングルスカルは遠藤三蘭（佐野東）が制した。2位に5秒は切れていた」と唇をかんだ。

昨夏まではダブルで活躍し、公式戦でシングルのレースに出場するのは今回で3度目。「自信を持って戦えるようになりたい」。インターハイに向けて意識を高めていた。

勝にも「納得できない内容だった」と満足していなかった。

スタートダッシュに成功し、併走する選手との差をぐんぐん広げたが、「オールを水面で擦ってしまい減速した。蹴りも弱かった」。4分7秒43でのフィニッシュにも、「ミスが無かったら4分

ボート女子ダブルスカル 息の合ったオールさばきで優勝した佐野（堀越・藤倉）＝渡良瀬川特設ボート場

ヒロイン

一心同体、成長見せる

佐野

2年生の仲良しコンビが渡良瀬川に成長の軌跡を残した。ボート女子ダブルスカルで堀越紅羽・藤倉望妃組の佐野が優勝。藤倉は「県総体の反省を生かしたいいレースができた」と喜んだ。

1000㍍のレース。序盤は「なかなか相手を引き離せない」（堀越）と焦りも感じたが、藤倉の「落ち着いて」の声で平常心を取り戻した。正確なオールさばきでスピードに乗ると、250㍍を過ぎる頃には、並走する相手を大きく引き離した。

息がぴったり合ったオールさばきが、彼女たちの成長を物語っていた。もともとシングルスカルの藤倉と、4人制のクォドルプルの堀越がペアを組んだのは4月。直後の県総体はスタートでバランスを崩し優勝こそしたが辛勝。「焦って動きを合わせられず、こぎが小さくなった」と堀越。

それからは練習を動画で撮影し、改善点を出し合った。仲の良さが奏功し、「気兼ねなく何でも言える」と藤倉。堀越も「指摘しても気まずくならない」と互いに高め合い、藤倉が堀越のタイミングに合わせる形に落ち着いた。

初出場を決めたインターハイでは8位以内が目標。「最高のこぎを出せるように、ラストスパートを強化する」と口をそろえる2人。厚い信頼と熱い友情を武器に、全国の強豪へ立ち向かう。

（平井星）

佐野・内田絃心（ボート男子シングルスカル優勝）「最初は焦りもあったが、500㍍を過ぎてやっと自分のペースでこぐことができた。初めてのインターハイになるので、タイムを伸ばして8位入賞を目指す」